

「三重県 心のノート」活用事例

校種	小学校	学年	5年	内容項目	2 - (5)
主題名	多くの人々の支えに対する感謝				
資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人々に支えられ、私たちの今がある 木曾三川と治水 「三重県 心のノート 小学校5・6年」(三重県教育委員会) ・地域の発展に尽くした人々 「わたしたちの桑名市」社会科 (桑名市教育委員会) 				
ねらい	自分たちの生活は多くの人に支えられていることを知り、それに感謝し、自分たちも他者のためにできることを実践していこうとする意欲をもつことができる。				
展開	学習活動と主な発問		指導上の要点		
	<p>1 もうすぐ最高学年になる今の気持ちやがんばりたいことを、みんなで交流し合う。</p> <p>2 4年生時の「わたしたちの桑名市」や社会見学で学習した伊勢湾台風・三川分流工事・宝暦治水について思い出す。</p> <p>3 資料を読み話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平田靱負が、故郷から離れた地の工事に向かう時の気持ちを考える。 ・薩摩藩士は、どのような思いで工事をしたかを考える。 ・当時の人々は、治水工事の様子をどのような思いで見っていたのか考える。 ・今でも薩摩藩士の慰霊祭が行われているのはなぜかを考える。 <p>市内にある治水神社や薩摩藩士の慰霊祭についてふれ、多くの人々の努力と苦労の上に今の自分たちの生活が成り立っている事を理解する。</p> <p>4 これから最高学年になる自分たちが、他者のためにできることについて考える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・6年生に向けてどんなことをがんばっていきたいかを自由に発表させる。 ・宝暦治水で学んだ薩摩藩士や平田靱負について思い出す。 ・平田靱負の「同じ日本に住む、困っている人を救おう」という思いをつかませる。 ・薩摩藩士や地域の人々の当時の思いにふれ、人のために尽力している人の思いや感謝して暮らす人の思いをつかませる。 ・市内にある治水神社や薩摩藩士の慰霊祭についてふれ、多くの人々の努力と苦労の上に今の自分たちの生活が成り立っている事を理解させ、今でも語り継がれる感謝の気持ちに気づかせる。 ・自分たちが他者にできる事は何かを考え、身近なところから実践していく意欲づけをする。来月の6年生を送る会につなげていく。 		
他の教育活動との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動・総合的な学習の時間 「6年生を送る会『6年生に感謝の気持ちを伝えよう』」 ・児童会活動・委員会活動(例)「ゴミ0大作戦」「ペットボトルキャップをワクチンに」 				

成果と
課題

<成果>

- ・ 先人の努力や苦勞があつて今の生活があることは、子どもたちの心に響いた。
- ・ 子どもたちそれぞれが他者のためにできることを考え、実践への意欲を持つことができた。

<課題>

- ・ 4年生の学習から時間が経ちすぎていて、既習学習内容を思い出すのに説明を要した。
- ・ 「今でも慰霊祭が行われているのはなぜか」の発問が、どの立場で考えるのかが分かりにくく迷う子どもがいたため、補足説明が必要であった。